

# 2014 ホームカミングデー 参加報告

理窓会岡山支部 副支部長 三浦 康男  
(昭和46年 理工学部数学科 卒)

今年の「2014 (第9回) ホームカミングデー」は、平成26年10月26日(日)に、昨年に引き続き葛飾キャンパスで開かれました。

例年の野田市での教え子の同窓会に出席し、当日は教え子が柏の駅まで送ってくれたので、金町駅に着いた時には9時過ぎでした。天候は曇り空で、少し雨が心配でした。早く会場に着いたので、プログラムにないスタッフのキックオフセレモニーに参加できました。和太鼓の連打で開式し、校歌斉唱、石神理窓会会長の挨拶などと続き、最後に「がんばろう」を三唱して勝ちどきを上げました。会場では、森野義男維持会会長、石神一郎理窓会会長、山田義幸前理窓会会長にお会いでき、5月の岡山支部総会へのご臨席のお礼を言うことが出来ました。

今回は、午前中は「二つのコンサート」、午後には「ふれあいライブステージ」「サイエンス夢工房」「坊ちゃん科学賞研究論文コンテスト表彰式」「お笑い演芸会」に参加しました。参加した順に、以下その概要などを報告します。

## 理声会発表会 (図書館・大ホール)

理声会は、理科大学の混声合唱団のOB会で30人程度の方が出演しました。バッハの「主よ、人の望みの喜びよ」(カンタータ第147番より) ウェルナーの「野ばら」など計7曲を披露しました。練習不足とのことでしたが、随所に美しいハーモニーが聞かれました。なお、ステージタイトルは「優雅な調べHCD2014」でした。

## 「祥子スペシャルライブ」 (図書館・大ホール)

ステージタイトルは「むらさきの花咲く街で」で、街とは、祥子さんの住んでいるそしてキャンパスのある葛飾区のことです。今までは野外の特設ステージでのライブでしたが、今回はホールでのコンサートで、美しい声がホールいっぱい響き渡りました。

平成2年に理学部数学科を卒業させてもらいましたとの言葉で始まり、チャイニーズカフェ(オリジナル)、カチューシャの歌と続き、3曲目は、日本にタンゴが伝わって100年とのことで、黒ネコのタンゴなどのタンゴをメドレーで歌いました。次に、祥子さんは、栃木県日光市の観光大使を務めており、中禅寺湖をテーマにした「湖上の舞」という歌を、後輩に振り付けを教えてもらったという踊りを交えながら歌いました。5曲目は鍵盤ハーモニカを演奏しながら、ステージタイトルである「むらさきの花咲く街で」を歌いました。むらさきの花とは菖蒲のこと、昔行ったことのある「堀切菖蒲園」を思い出しました。どんなジャンルの歌でも、よい歌を歌いたいとのことで、6曲目には、演歌「天城越え」を歌いました。クラシック音楽もそうですが、演奏者が違っても

良い曲には感動しますが、専門外と言いながらも素晴らしい歌でした。最後は、コンサートの終わりにはこの歌を歌っていますと、「百万本のバラ」を歌いましたが自然と会場から手拍子が湧きました。コンサートは終わりましたが拍手が鳴りやまず、アンコールに応じて日光東照宮の公式イメージソング「時を超えて」(オリジナル)等2曲が披露され、会場内が感動のうちにコンサートが終わりました。会場を出ると心配された雨もなく、薄日の指す天候になっていました。

昼食は、学生食堂で「かきフライ定食」を食べました。ネギトロ丼などの丼物、うどんやそば、カツカレーやラーメンセットなどのそれぞれの定食は、値段はすべて500円と安価でした。

### ふれあいライブステージ：①「東京理科大学神楽坂吹奏楽団」(キャンパスモール)

午後には、まず野外の特設ステージでのライブを聴きました。南風のマーチ、君の瞳に恋している、ディスコキッドなどの曲が演奏されました。野外の特設ステージでの演奏だからかもしれませんが、金管のバランスが少し強く、クラリネットやフルートなどの木管楽器の旋律が、もっと浮かび上がっても良いのではと思いました。しかし、リズムはたいへんよく、練習の成果が出ていたように思いました。

### ふれあいライブステージ：②「東京都立葛飾総合高等学校吹奏楽部」

大学生の吹奏楽に続いて、高校生の吹奏楽の演奏がありました。100人近い人数の吹奏楽部で、会場にはキャンパスのメインロードをマーチングしながらやって来ました。大人数なのでリズムが合わせにくいのですが、よく練習されており素晴らしい演奏でした。

### 坊ちゃん科学賞研究論文コンテスト表彰式(講義棟1階101教室)

時間の関係で発表会には参加できず、審査が決まり審査委員長の秋山仁(理科大教授)の講評から参加しました。最優秀賞は「オイラー線に関する新事実～解析幾何学のアプローチから～」で、明治大学付属明治高等学校(東京)の市田 優さんです。他の優秀賞の題を挙げると「ダブルネットワークゲルは、なぜ生成したゲルの中心にできるのか」「養老孝子伝説再現プロジェクト2～湧水から分離した酵母の遺伝子同定および日本酒醸造の試み～」「草花による室内空気浄化研究」「2013年8月23日 美濃加茂市で発生したダウンバースト」と、高校生とは思えない研究題でした。

秋山審査委員長の講評は、『今年で第6回を迎えるが、今年は特に研究のレベルが高く、女性が多く応募したのが特徴で大変喜んでいいる。また、応募件数も110件と多かった。今後の研究発表などに望むこととして、発表は実際に研究してきたことなどで、原稿を読まないで発表した方がよい。参考文献などはきちんと示しているかなども、審査の対象になるので参考にして欲しい。』でした。

## サイエンス夢工房(講義棟4階)

ホームカミングデーの特徴として、大学生や同窓生だけでなく、子どもから参加できるということがあります。子ども向けの科学を利用した、体験的なコーナーがたくさん設けられていました。「偏向顕微鏡で見る世界」「からくり周期表、単位表をつくろう」「電池をつくり、電気の実験をしよう」「ふしぎな動きのUFOをつくろう」などがあり、どの会場も多くの親子連れでにぎわっていました。

## お笑い演芸会(講義棟2階201教室)

講義棟の4階から2階に降りて、昨年に続きお笑い演芸会に参加しました。60人ほどの会場は満席の盛況で、後ろには立ち見ができるほどでした。会場は、前に座布団席が20席ほど、その後ろにイス席が50席ほど設けられており、私はイス席の一番前で観演しました。はじめは、理科大の落語研究会の「神楽家 にゃんにゃん」(寺崎由香、理学部 物理科)「暇良家 (ヒマラヤ) けしごむ」(野口 貴洋、理学部 数学科)の二人による落語でした。神楽家というのは、代々続いているそうです。

「神楽家 にゃんにゃん」の話は、人には実際の年齢よりも5歳ほど若く言ったり、場合によっては、年をとっているように言ったりした方が喜ばれるという内容でした。60歳の人に「56歳ですか。若くて元気ですね。」と言って喜ばれたから、同じように小学生にも「2～3歳に見えますよ。」と言ったり、しっかりした高校生に、「しっかりしていますね。大学生ですか。」と言うことと同様に、体重が重い赤ちゃんに、「しっかりしていますね。5歳ですか。」と言ったりして、会場の笑いを誘いました。また、話の内容を一瞬忘れて、会場から頑張れの声がかかったり、拍手が起こったりしました。

「暇良家 けしごむ」の落語は、話し方のうまさもさることながら、扇子を使っての食べる市草などが素晴らしく、プロにも引けを取らないなど感心しました。

2人の素人の落語に続いて、春風亭 美由紀による三味線と寄席、日舞がありました。私の父はとび職でしたが、高所恐怖症で3階以上の高さは駄目でした。私がよく仕事が出来たねと聞くと、昔は3階以上の建物はなかったからと返事が返ってきましたとの話から始まり、三味線を弾きながら童謡を「どどいつ」で歌ったり、最後は「さんさ節」を踊ったりしました。

最後に理科大OBの落語家、桂 歌助(かつら うたすけ)による落語がありました。昨年は古典落語でしたが、今年は理科大の礎を築いた人たちの物語を、落語で話してくれました。落語は、普通は9割うそ、1割事実で構成されるそうですが、今回は9割が事実、1割がうその構成にしたそうで、理科大16人の創始者の名前をすべて言うなど、

理科大創設期の勉強をかなりされたそうです。大変予定の時間を10分も超え、笑いの中にも理科大創設に向けての創始者たちの努力が伝わってくる熱演で、創設期の歴史的なことが良くわかりました。

なお、お笑い演芸会の司会・進行役も、桂 歌助がつとめました。

時間を見ると午後4時が近づいていました。最後に移動プラネタリウムを体験する予定でしたが、飛行機の時間もあるので、来年の第10回となるホームカミングデーを楽しみにして、葛飾キャンパスを後にしました。

今回のホームカミングデーは、理科大学と地元金町や葛飾区とのつながりの深さを感じるものになりました。子ども向けの体験コーナー、区立中学生による科学実験・工作体験教室、地元高等学校吹奏楽部の演奏、葛飾区自主生産品販売所協議会による食品の販売などがあり、どこかの町のイベントかと思うほど、親子連れや多くの老若男女で賑わい、とても大学のイベントとは思えませんでした。また、大学に通じる通りには、あちこちで「金町理科大商店会」の名前も目につきました。今、小学校や中学校では、地域とのつながりの重要性を言われていますが、東京理科大学は、まさにその大学版を先取りしており、教育に携わってきた者として、大変嬉しく感じました。

以上が、今年のホームカミングデーに参加しての報告・感想です。

平成26年10月29日

理窓会岡山支部 副支部長 三浦 康男